

1 年生 こども未来学科対象 (子どもの健康と安全)

ティーチング・ポートフォリオ

佐賀女子短期大学 こども未来学科 元村智恵子

1. 教育の責任

本科目は保育士資格の必須科目であり、「保育の内容・方法に関する科目」に位置づけられている。この科目領域の教育目標は「教育者・保育者としての専門的知識や実践的スキルを習得し、コミュニケーション能力や対人関係のスキルを身に付ける」ことである。

また、ディプロマポリシーの「DP2、DP3、DP4」に関連し、評価基準として特に「⑧遊びや生活の援助などの実践に必要な能力を身に付けている」や「⑨子どもを理解するための知識と実践的な能力を身に付けている」との関連が深い。

2. 教育の理念

子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本であり、一人一人の子ども及び集団の健康の保持及び増進並びに安全の確保に努めることが重要である。

現在、新型コロナウイルス感染症は通常の感染症としての扱いになってきたものの新たな感染症の発生が予測されている。また、保育施設等における子どもの死亡・重大事故は毎年発生している状況がある。

2017 年告示の『保育所保育指針』の「第 3 章健康及び安全」では、アレルギー疾患への対応、事故防止や災害への備えが詳述され、子どもの生命に関わる内容を深く学ぶことが求められている。

3. 教育の方法

授業の到達目標は、2018 年の保育士養成課程等の改正の基準に即して 6 つ挙げた。本科目では「子どもの保健」の知識をもとに、保育者として、子どもの命を守るための的確な判断や対応が実践できるように、衛生・安全管理や体調不良等への対応、感染症対策や保育における保健的対応等について、具体的な対応の仕方を理解できるようにする。また、子どもの健康と安全を守る取組みに際しての職員や関係機関との連携や組織的な活動推進のための保健計画及び評価について具体的に理解できることを到達目標とした。

学生は 1 年次の 6 月に付属幼稚園での「一週間実習」を終えており、後期終了後の春休み期間に

は「保育実習 I (保育所)」を控えている。そのため、学修内容に関する事象について一週間実習時を振り返ったり、次の実習につなげることを意識させたりすることで、実践に必要な知識の定着や対応について実感を伴う具体的な理解を図る。授業計画では毎回、授業内容に即した実技演習やグループ演習を計画し、学生には主体的な参加を求め、実践的な能力の育成を図った。

4. 教育の成果

(1) 成績評価の分布

成績	秀	優	良	可	不可
人数	16	21	5	5	0
%	34.0	44.7	10.6	10.6	0.0

・平均は 84.2 点であった。

(2) 授業評価アンケートの結果

①学生による到達度評価

・『十分に達成したか』について、「とても当てはまる」が 47%、「まあまあ当てはまる」が 32%の合計 79%であった (学内全体 77%)。

②学生の満足度

・『総合的評価』では、最もよい「5」が 58%、「4」が 24%の合計 82%であった (学内全体 76%)。

・『感想・意見』には、「資料に復習ポイントや、教科書の参考ページも記載されてわかりやすい」、「意見を尋ねられるので、自分の意見から知識を深めることができた」、「演習もあり、実際にやってみることでより理解を深めることができた」、「実技演習することで手順が頭に残りやすい」などがあつた。

5. 目標

- ・事前・事後指導を見通した授業の展開を工夫することで、実技演習の実施・振り返り活動の充実を図る。
- ・実技演習において具体的な場面を想起させたり設定したりすることにより、主体的に考え・表現することを仕組み、子どもに対する声かけや援助に必要な知識等、実践的な能力を身に付けられるようにする。